

令和3年度 東京都立国分寺高等学校

推薦に基づく選抜

小論文

注 意

- 1 問題は **1** と **2** で、3 ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は **50** 分で、終わりは **午後0時40分** です。
- 3 声を出して読んではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に横書きで明確に記入し、**解答用紙だけを提出しなさい**。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 書き出しや改行の際には1マス空けなさい。
- 7 原稿用紙の使い方に従って「」、。などのほか、書き出しや改行の際に空けたマスもそれぞれ1字と数えなさい。
- 8 下書きやメモはこの問題用紙の余白を利用し、解答用紙の余白には何も記入してはいけません。
- 9 検査中に印刷不鮮明、解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
なお、問題の内容に関する質問は一切できません。
- 10 数字、アルファベットを用いる場合は、1マスに2字までとします。
- 11 **受験番号**を解答用紙の決められた欄^{らん}に記入しなさい。

1

次の文章を読んで、下の問題に答えなさい。

人間にとっては「生きること」と「考えること」を離すことは事実上できません。つまり、「よく生きる」ということは「よく考えること」、「よく考えること」は「よく生きること」で、この二つは離すことができない。私はそう思うのです。

現在、日本ではあらゆる意味で考えること、生きること、両方ともひじょうに困った状態、マヒ状態に陥^{おちい}っているのではないかという気が、私にはします。それはいろいろの点からいえますけれども、私の考えでは、ことばというものが考えることと生きることとを結びつけることをやめて、すなわち正しい表現能力を失って、もう何かを表現するのは問題ではなく、ことば自体が一つの糸のきれたたこのようになり、一人歩きを始めて、そのことばのやりとりだけでもってすべての人が問題をすましてしまう。つまり、ほんとうの現実とことばとが、かみあっていない。生きていない、考えていない。それでいてしかも、生きていくかのような、考えているかのような状態が出てくる。この状態は、おそらく日本だけの問題ではないでしょうが、いまいちばん大きな日本の欠陥^{けっかん}ではないかと思います。

(森有正 「生きることと考えること」 による)

問題 ことば自体が一つの糸のきれたたこのようになり、一人歩きを始めて、そのことばのやりとりだけでもってすべての人が問題をすましてしまう。 とあるが、具体的にはどういうことか。また、それを改善するには、何をすべきであるか、**200字程度**であなたの考えを述べなさい。

2

資料1は、世界全体の穀物の生産量や消費量の変化を示しています。資料2は、世界人口の見通しを示しています。資料3は、世界の穀物の生産量と単位面積当たりの収量（単収）及び*収穫面積の変化を示しています。資料4は、世界全体の*食肉需要の見通しを示しています。資料4にあるような食肉となる家畜を育てるためには、穀物が必要になります。例えば、牛肉を1kg生産するには11kg、豚肉は7kg、家きん肉（とり肉）は4kgの穀物が必要であると言われていま

す。

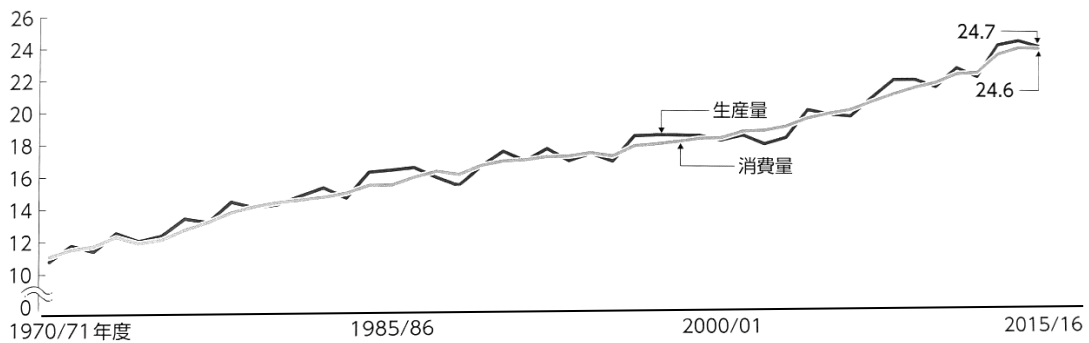
このような人口の変動や食生活の変化は、将来の食料供給にどのような影響を与えると考えられるか。4つの資料を参考に、180字程度で述べなさい。

なお、解答には、次の□にあるすべての用語を必ず使用し、その用語には下線を引いておくこと。

生産量、消費量、世界人口の見通し、単収、収穫面積、食肉需要の見通し

- 〔注〕 収穫面積 穀物の取り入れができた土地の面積。
食肉需要 消費者が求めている食肉の量。

資料1 世界全体の穀物の生産量、消費量



資料：米国農務省「PS&D」、[World Agricultural Supply and Demand Estimates] を基に農林水産省で作成（平成28（2016）年3月現在）

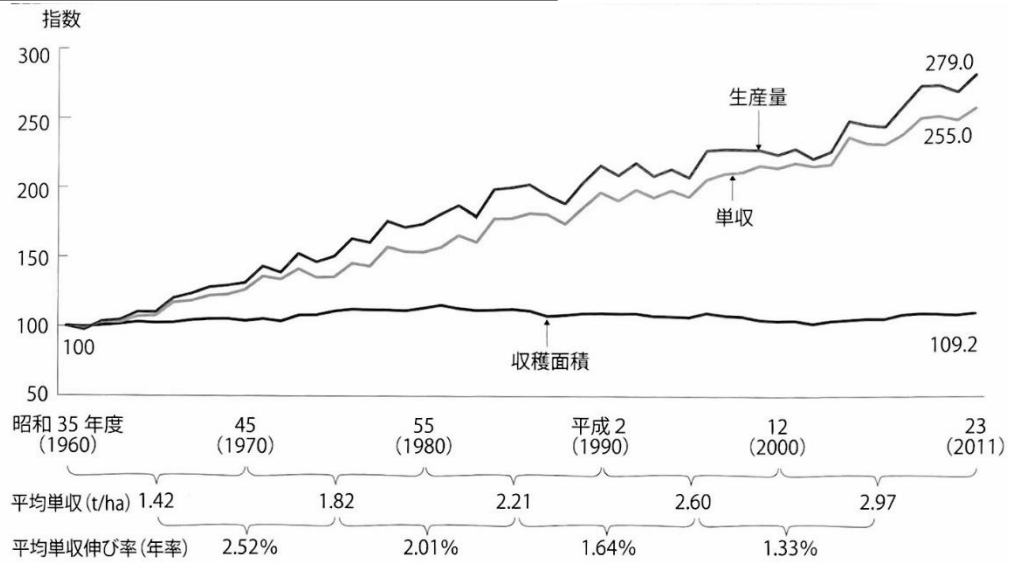
注：穀物は、小麦、粗粒穀物（とうもろこし、大麦等）、米（精米）の合計

資料2 世界人口の見通し

年	1990年	2000年	2010年	2020年	2030年
人口	53.3億人	61.4億人	69.6億人	77.9億人	85.5億人

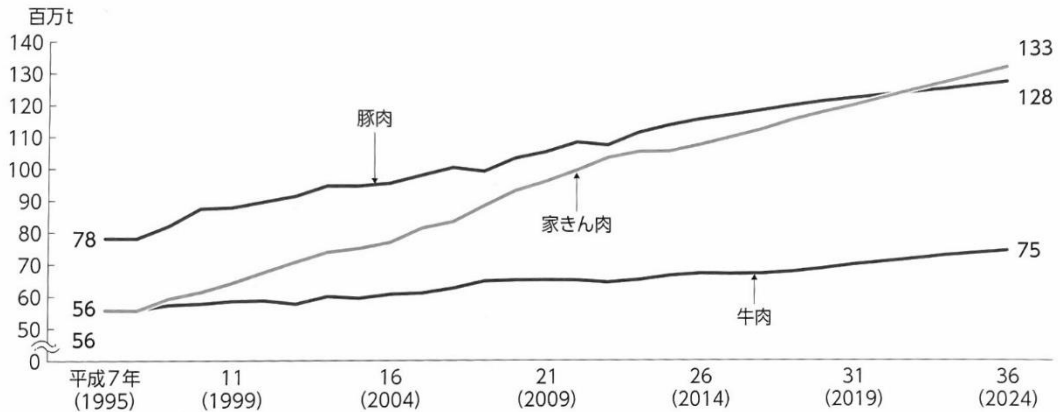
資料：国連「World Population Prospects The 2019 Revision」より

資料3 世界の穀物の生産量, 単収, 収穫面積



資料：米国農務省「PS&D」、国連「World Population Prospects : The 2010 Revision」を基に農林水産省で作成
 注：生産量、単収、収穫面積は、昭和35（1960）年度=100とした指数。平均単収は10か年における単収の平均

資料4 世界全体の食肉需要の見通し



資料：OECD-FAO「Agricultural Outlook 2015-2024」（平成27（2015）年7月公表）
 注：OECD-FAOによる平成26（2014）年までのデータ及び、平成27（2015）年以降は推計値